

観世九臯会

かんぜきゆうこうかい



十二月 定例会

Noh Kyogen
KANZE KYUKOHKAI
11 December, 2022 (sun)
Yarai Noh Stage

令和4年12月11日(日)
於 矢来能楽堂

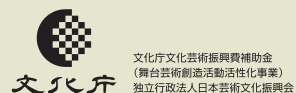
【第1部】12:30開演(12:00開場)
14:10終演予定

—客席入れ替え—

【第2部】15:30開演(15:00開場)
16:45終演予定

※第2部のみ前年と開演時間が変更となります。ご注意ください。

主催：公益社団法人 観世九臯会



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会

感染予防にご協力をお願いいたします。

◆ ご来場の際のお願い

- ・体調不良の方は、当日でもご来場をお控え下さい。
- ・ご入場の際は必ずマスクをご着用ください。
- ・入口にて手指のアルコール消毒と検温にご協力下さい。
- ・37.5℃以上の発熱がある方は入場をお断りさせていただきます。
(上記にご協力いただけない方には、ご入場をお断りいたします。)
- ・上記にて入場不可となった方へは、ご事情を伺った上で、払い戻しをさせていただきます。チケットを半券ともにご保管の上、ご連絡下さい。

◆ 会場内でのお願いなど

- ・喫茶室は閉室しております。場内でのお食事はご遠慮下さい。
- ・場内のウォーターサーバーは、使用停止とさせていただきます。
- ・水分補給のためのお飲み物は、ご持参ください。
- ・換気のため、お席によっては空調が強く当たるところがございます。
ご自身にて上掛け等をご持参ください。
- ・出演者へのご面会、お差し入れは当面の間、ご遠慮ください。

- ・矢来能楽堂のお手洗いは数が大変に限られております。なるべくご来場前にお済ませ頂き、ご利用の際は間隔をあけてお並びください。

◆ 上演にあたってなど

- ・上演中も、マスクの着用をお願いいたします。
- ・舞台上も出演者の感染予防対策を講じた形式での上演とさせていただきます。
- ・公演の前後および休憩中には外気を入れ、会場内の換気をいたします。
- ・場内換気のため、上演中もロビーとの扉は開けさせていただきます。
- ・1部、2部とも続けてご覧になる方も、一旦退場をお願いいたします。
- ・万一、来館者ならびに出演者・スタッフに感染が疑われる者が後日、発生した際は、所轄の保健所へご来場者様情報を提出させていただく場合がございます。

このほか、矢来能楽堂ホームページにて、「矢来能楽堂における感染予防措置」をご確認の上ご来場ください。

皆様の健康と安全を第一に考えて実施いたしております。

ご不便をおかけすることもございますが、何卒ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

矢来能楽堂・公益社団法人 観世九臯会

全指定席(各部)

正面席 5,500円 / 脇正面・中正面席 4,400円

学生券(脇正面・中正面) 2,200円 ※学生券は26歳未満(要学生証)
未就学児入場不可

1部2部通しセット(脇正面・中正面のみ) 7,800円

矢来能楽堂のみ取扱い

〔注意事項〕

- ・記載の演目・演者等はやむを得ない都合により変更になる場合がございます。
- ・許可のない録音・撮影は一切禁止です。
- ・携帯電話は電源からお切りください。
- ・演能やほかのおお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。
場合によっては退場していただく場合がございます。

新型コロナウイルスの感染状況や行政機関などによる指示、各種ガイドラインの変更・更新等に伴い、内容に変更がでる場合がございます。最新情報は矢来能楽堂ホームページや公式ツイッターなどでも随時お知らせいたしますので、ご来館時などには必ずご確認くださいませようお願いいたします。

能・狂言
観世九臯会
矢来能楽堂

162-0805 東京都新宿区矢来町60

【お申込み・お問合せ】

矢来能楽堂・観世九臯会

電話：03-3268-7311 FAX：03-5261-2980

メール：yarai@eos.ocn.ne.jp

http://yarai-nohgakudo.com/



カンフェティチケットセンター

(WEB予約後セブンイレブンで発券)

電話：0120-240-540

表紙写真「獅子口」撮影：青木信二

能楽書林

権藤芳一著
『能楽手帖』



簡潔な解説で携帯にも便利な能楽鑑賞
事典。見聞き一曲で、上演頻度の高い
一三〇曲を厳選して収録。曲ごとに、
あらすじ・みどころ・作者・素材・各
流の小書きなどが書かれ、観能の手引
きに最適な書。巻末に用語解説も付す。

新書判・三〇二頁
本体一四〇〇円十税

柳沢新治著

『横からみた能・狂言』

長年、NHKの能楽放送に携わった著
者が著した、現場ならではの「放送
うらばなし」をはじめ、能の歴史を
ひもとく「能の歴史」・心に残る人々
との思いの随想「出合いと別れ」・
能をモチーフとした推理小説「能舞台
の目撃者」など、バラエティに富んだ
内容を一冊にまとめた好読物。

四六判・二二三頁
本体二〇〇〇円十税

ご注文・お問合せ

能楽書林 九段下駅徒歩すぐ
☎ 03-3266-1084
FAX 03-3266-1084
メール shoin@mercury.plala.or.jp

観世九臈会 十二月定例会

令和四年十二月十一日(日) 於 矢来能楽堂

【第一部】 十二時三十分開演 (正午開場)

番組

狂言 萩大名 シテ 野村万之丞
アド 河野 佑紀
少アド 野村 万蔵
後見 野村拳之介

—— 休憩十分 ——

(午後一時頃)

ツレ 石井寛人
シテ 奥川恒治
能 卷 絹 ワキ 安田 登
大鼓 高野 彰 太鼓 林雄一郎
小鼓 大山 容子 笛 小野寺竜一
神楽留 間 野村真之介

後見 佐久間二郎
遠藤 和久
金子仁智翔 中森健之介
奥川恒成 坂真太郎
新井麻衣子 小島英明
久保田宏二 桑田貴志

(終演予定 午後二時十分)

【第二部】 午後三時三十分開演 (午後三時開場)

番組

放生川 中森貫太
仕舞 松 風 観世喜之
谷 行 駒瀬直也
金子仁智翔
遠藤和久
中所宜夫
永島 充

(午後三時四十五分頃)

ツレ 観世和歌
シテ 観世喜正
能 石 橋 ワキ 宝生欣哉
大鼓 亀井洋佑 太鼓 観世結子
小鼓 観世新九郎 笛 一噌隆晴
神楽留 間 野村拳之介

後見 弘田裕一
観世喜之
中森健之介 永島 充
桑田貴志 奥川恒治
坂真太郎 鈴木啓吾
佐久間二郎 遠藤喜久

(終演予定 午後四時四十五分)

《あらすじ》

狂言 萩大名

遠国の大名が遊山を思い立ち、太郎冠者に相談する。冠者は萩の花が盛りの清水の茶屋を勧めるが、そこでは和歌を詠むのが通例になっているという。大名は冠者に歌を教わって出かけるが、どうしても覚えられず：

能 卷 絹 神楽留

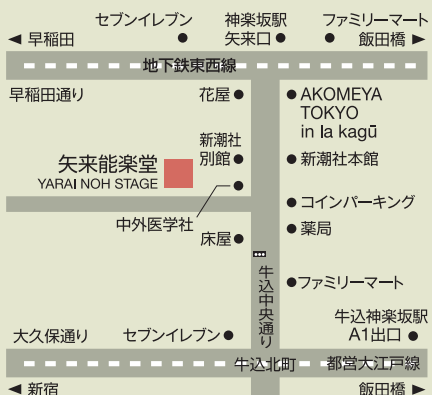
宣言により国々から熊野三社に巻絹が納められる中、都から巻絹を運ぶ男が熊野に着く。男はまず音無天神に立ち寄り、梅の匂いに惹かれて神に一首の歌を捧げる。やがて巻絹を届けるが、遅参の各で縄を掛けられてしまう。そこへ音無天神が憑依し

た巫女が現れ、男が自らに和歌を捧げたことを訴え、縄を解く。巫女は和歌の徳を説き、祝詞を上げて神楽を舞う。神懸かりの様を見せるが、やがて神が上がり、巫女は狂乱から覚めるのであった。

能 石 橋 大獅子

唐へ渡った寂昭法師が清涼山を訪れ、いわれある石橋を渡ろうとする。そこへ木樵がやって来て、その石橋を渡るのは容易なことではないと嗜める。木樵は石橋のいわれを語り、法師にここで待つように言い残して立ち去る。やがて法師の眼前に、咲き乱れる牡丹に獅子が力強く舞う光景が広がる。

二体の獅子を観世喜正・和歌が親子で演じる。和歌にとっては今回が披きとなる。



地下鉄東西線神楽坂駅 矢来口より徒歩2分
都営大江戸線牛込神楽坂 A1出口より徒歩5分
駐車場はございません。近隣のコイン駐車場をご利用ください。